

## 9. 「不知火」の早期減酸タイプ「安芸の輝き」を品種登録

### 1. 背景とねらい

広島県は瀬戸内海の温暖な気候に恵まれ、中晩柑類の栽培が盛んである、「不知火」も栽培されているが、降水量が少ないために減酸が遅延したり、日照不足で糖度が上がりにくいので、越冬栽培を行い、2月下旬以降に収穫している。

そこで、珠心胚実生を用いた育種により、「不知火」より減酸が早い新品種を育成する。

### 2. 成果の内容

- 1) 「安芸の輝き」は、2001年に「不知火」の珠心胚実生から選抜し、外観は「不知火」と同じである（図1, 2）。
- 2) 果実の大きさは「不知火」とほぼ同程度で約260gである（表1）。
- 3) 1月中旬～2月上旬に調査した果実の糖度は「不知火」に比べて平均0.9° Brix低いが、クエン酸含量は0.33%低いため、糖酸比が高く食味がよい（表1）。
- 4) 以上の結果より、「安芸の輝き」は「不知火」より減酸が早く、2月上旬以降に食味良好となるカンキツ新品種である。
- 5) 「安芸の輝き」は、2009年3月6日に品種登録となった（登録番号第17733号）。また、2008年10月1日付で、広島県果実協同組合連合会と許諾規約を結んでいる。

### 3. 普及上の留意点

- 1) 増殖は高接ぎで行うと、ウイルス・ウイロイドの感染の恐れがあるため、フリー化苗木により行う。
- 2) ウンシュウミカン栽培適地より土壌の保水性がよい園地で栽培する。なお、果実肥大と減酸を促すために、夏期にかん水を行うことが望ましい。
- 3) 苗木、穂木の分譲は、許諾契約日から5年間、広島県内の生産者に限られる。

(果樹研究部)

#### 4. 具体的データ

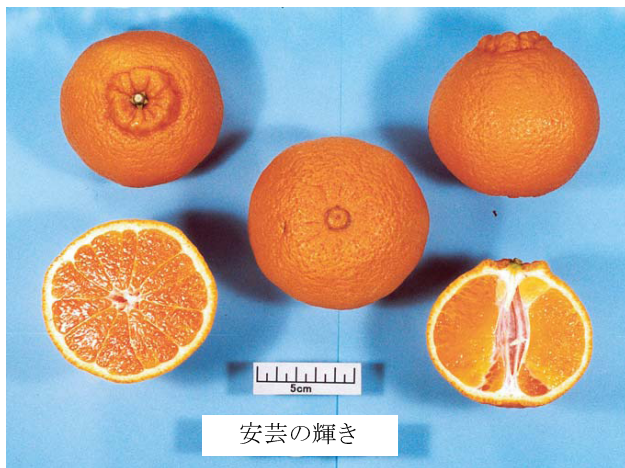


図1「安芸の輝き」の果実



図2「安芸の輝き」の着果状況

表1 「安芸の輝き」の果実形質 (果樹研究部, 2001~2003年)

| 系統・品種    | 分析年月日<br>(年. 月. 日) | 果実重<br>(g) | 糖度<br>(° Brix) | クエン酸<br>含量(%) | 糖酸比<br>(糖度/クエン酸) |
|----------|--------------------|------------|----------------|---------------|------------------|
| 安芸の輝き    | 2001. 1. 15        | 246        | 12.3           | 1.32          | 9.3              |
|          | 2002. 2. 04        | 262        | 13.0           | 1.02          | 12.8             |
|          | 2003. 2. 04        | 269        | 15.0           | 1.33          | 11.3             |
|          | 平均                 | 259        | 13.4           | 1.22          | 11.1             |
| 不知火 (対照) | 2001. 1. 15        | 262        | 12.9           | 1.59          | 8.1              |
|          | 2002. 2. 04        | 192        | 14.3           | 1.30          | 11.0             |
|          | 2003. 2. 04        | 220        | 15.6           | 1.76          | 8.9              |
|          | 平均                 | 225        | 14.3           | 1.55          | 9.3              |